

Nature-based Solutions：自然に根ざした社会問題の解決に向けて

2026年2月23日（月・祝）14：00～17：30 オンライン開催

さまざまな社会問題に対して地形や生態系など自然環境を考慮して活用する自然に根ざした社会問題の解決（Nature-based Solutions; NbS）の考え方が浸透してきています。

NbSに関して、気候変動等の環境変化の激甚化への対応や、文化や生産活動を含む人間生活の向上など、社会課題に対する応用可能性を示し、実装に向けた社会変革について考えます。

14:00-14:15

開会挨拶

小口 高（日本学術会議第三部会員／東京大学空間情報科学研究センター）

趣旨説明

山野博哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科，国立環境研究所）

14:15-15:30 <第一部 NbSの可能性>

地理学から考えるNbSの展開

南雲直子（土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター）

ウェルビーイング、生物文化多様性との関わり

深町加津枝（日本学術会議連携会員／京都大学大学院地球環境学堂）

農業生産、環境保全と生態系サービスの両立

木村園子ドロテア（日本学術会議連携会員／ライプニッツ農業景観研究センター，フンボルト大学ベルリン生命科学学部）

15:35-16:50 <第二部 NbS実装に向けて>

NbS実装に向けた制度

村上暁信（日本学術会議連携会員／筑波大学システム情報系）

NbS実装のためのネクサスガバナンス

齊藤 修（公益財団法人地球環境戦略研究機関）

海外島嶼国への展開

茅根 創（東京大学大学院工学系研究科）

16:50-17:30

コメント：NbSの現状と将来

福井俊介（環境省自然環境局）

石井励一郎（総合地球環境学研究所）

総合討論

閉会



お申し込みフォーム

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/1CpFnyXlQpG4r80Kj4T0Pg>

お問い合わせ 山野博哉
(hyamano@nies.go.jp)

主 催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会
共 催：国立環境研究所，総合地球環境学研究所，SIP魅力的な国土・都市・地域づくりを評価する
グリーンインフラに関する省庁連携基盤，環境研究総合推進費S21，環境研究総合推進費2-2402
後 援：公益社団法人地理学連携機構，公益社団法人日本地理学会

背景写真：谷津の放棄水田のNbS活用：窒素を利用して負荷を減らすれんこん畑